

本場所の楽しみ方

案内所

「案内所」は、入場券とともにお弁当やおみやげ、飲食が可能です。案内所でご予約いただくと、一般入口とは違う相撲案内所入口から入場、たっつけ袴姿の出方さんに席までご案内。席に着いてからも、焼き鳥や弁当などの食事や飲み物などを出方さんにお願ひすると、席まで届けてもらえるサービスなどが受けられます。(要事前予約)
●お問い合わせ ☎03-3622-3300
🌐www.kokugikan.co.jp

本場所限定! 相撲部屋ちゃんこ

本場所中は地下の大広間にて相撲部屋のオリジナルレシピで作った特製ちゃんこを販売しています。大鍋で煮込んだ具だくさんの本格ちゃんこは絶品です。価格もリーズナブルなので、是非お召し上がりください!

場所入り

南門より14時頃から幕内力士が続々国技館入り。(横綱・大関以外の力士)話題の人気力士を間近で見られるチャンスです!

公式SNS
登録者
限定!

SNSで限定プレゼント!

本場所中、公式LINEかtwitterの登録画面をご提示いただくと、限定品をプレゼントしております!

公式 LINE @sumokyokai

オフショット満載!

チケット情報はもちろん、力士達のおもしろ動画や写真も配信されます。ぜひ友達登録してくださいね。

国技館の見どころ

吊り屋根

国技館の吊り屋根は伊勢神宮などと同じ神明造り。屋根の四隅には青(東)・赤(南)・白(西)・黒(北)の「四房」が見えます。それぞれ青龍・朱雀・白虎・玄武の四神を表し、神聖な土俵を守護する役割があります。

優勝額

大相撲の本場所では幕内最高優勝を達成した力士に毎日新聞社より贈呈されるもの。現在の国技館では、四方に8枚ずつ32枚掲額されています。

マス席

マス席は靴を脱いで座布団に座るスタイル。1マス4人用が基本です! 席に置いてある茶色のお茶盆は「案内所」から予約した場合のサービス。

壁画

国技館の壁画前は人気の撮影スポット。向かって右の壁画は、江戸時代後期、豊国(三代)による作品で、両国の回向院での相撲興行の様子が描かれています。

公式 twitter @sumokyokai

当日券情報もツイッターで!

本場所情報、チケット情報は、もちろん、大相撲に関するいろいろな情報を現場より随時発信していきます!



日本相撲協会

年間スケジュール

年に6回の本場所だけでなく、その合間に全国各地への巡業などがあります。

本場所

1月場所 東京

3月場所 大阪

5月場所 東京

7月場所 名古屋

9月場所 東京

11月場所 福岡

花相撲

「花相撲」とは、巡業や奉納相撲など本場所以外の相撲です。

巡業はなく、引退断髪式や、昇進披露パーティー、結婚披露宴などがあります。また、節分には各地で、豆まきも。

住吉大社奉納土俵入り

春巡業

伊勢神宮から始まり、靖国神社奉納相撲まで東京に戻るルートで巡業地が組まれます。

熱田神宮奉納土俵入り

夏巡業

東北地方や北海道など、涼しい土地から順次、東京へ戻る形に日程が組まれます。

秋巡業

中国・四国地方などを中心に、九州へ向けて南下する形に日程が組まれます。

住吉神社奉納土俵入り

冬巡業

九州場所を終え、そのまま九州一円、沖縄諸島など、暖かい土地での巡業。



巡業は、関取と近い距離で触れ合えます!



スマホでも
座席選択
OK!

2,200円から大相撲観戦!

チケット大相撲

チケット大相撲 (PC/携帯 共通)

最新のチケット情報は「チケット大相撲」をご確認ください。

0570-02-9310 (お電話でのご予約は観戦の3日前まで)

コンビニで
観戦当日
まで
買える!

チケットぴあ 7 ELEVEN Circle K Sunkus K 三軒茶屋

チケットぴあ、セブンイレブン、サークルKサンクスでも当日まで購入可能

席種・料金はこちら

※自由席は、興行当日のみ国技館切符売場にて販売いたします。原則お1人様1枚の販売となります。
※特割については、「チケット大相撲」での取り扱いはありません。

20140345000

本場所の時間割

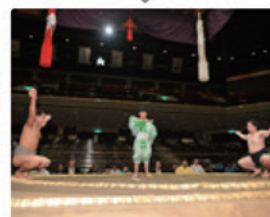
8:00 開場

「みなさん大相撲へようこそ!」の気持ちをこめて打ち鳴らされる寄せ太鼓が合図で開場。



8:30 頃 前相撲

新弟子になりたての者同士等による勝負。番付に載っていない力士の相撲。
※前相撲は3日目から



8:40 頃 序ノ口〜幕下取組

序ノ口の取組から始まり、序二段、三段目、幕下と順に上位陣の取組へ上がっていく。
※13日目以降の取組は午前10時頃から



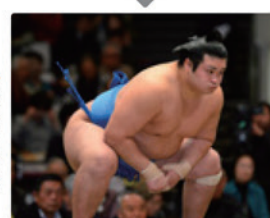
14:20 頃 十両土俵入り

化粧廻し姿の十両力士が堂々と登場。関取と呼ばれ、相撲界で一人前とみなされるのは十両から。



14:40 頃 十両取組

幕内進出を狙う若武者や円熟した取り口のベテランが激突!取組終了後、中入り(休憩)になります。



15:45 頃 幕内土俵入り

人気力士たちが色鮮やかな化粧廻しを絡めて土俵を一周。相撲場の雰囲気が一気に華やぐ時間。



15:50 頃 横綱土俵入り

横綱が太刀持ち・露払いを従えて土俵入り。拍手を打って四股を踏む横綱に「よいしょ!」の掛け声。



16:15 頃 幕内取組

相撲道を極めた幕内力士たちの熱戦!17時過ぎには小結、関脇、大関も登場します。



18:00 頃 弓取り式

結びの一番のあとに力士が弓を華麗に振る儀式。勝った力士に褒美として弓を与えたのはじまり。



打ち出し

「またのご来場を!」という気持ちをこめて、呼出によりはね太鼓が打たれる。
※千秋楽は、はね太鼓は打ちません



※本誌に掲載した情報は平成26年3月現在のものです。掲載した情報は変更になる場合があります。ご了承ください。

歴史

国技といわれ、日本の伝統文化である相撲。その大きな魅力の一つが、1500年以上も続く長い歴史です。相撲の奥深さを知ることにより、本場所観戦をより楽しめるよう、簡単にその歴史をご紹介します。



「相撲の起源」

相撲は人間の闘争本能の発露である力くらべや取っ組み合いから発生した伝統あるスポーツです。これによく似た形態のスポーツは、古来世界各地で行われました。

品格

神事に由来する相撲は、華やかな様式美と格式ある礼法を重んじ、正々堂々、技と力を競い合いながら今に伝えられてきました。土俵上での力士の所作すべてには「神に捧げる」意味が込められています。そうした所作の持つ意味について、ご紹介します。

「土俵祭り」

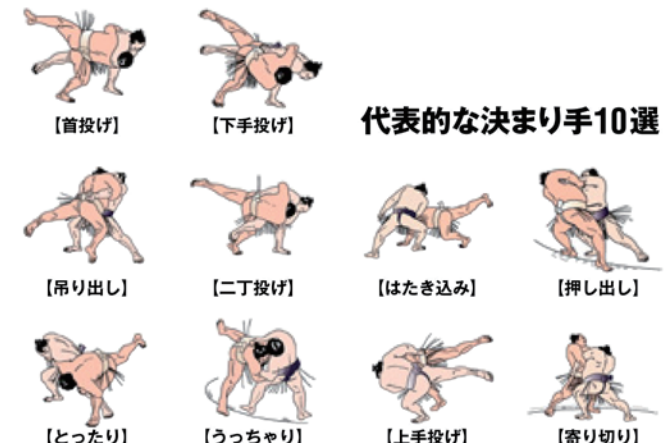


本場所初日の前日は、土俵を清め、場所の無事と力士の安全を祈る儀式を行います。神官姿の行司が祭主になり、お払いをして祝詞をあげます。土俵の中央に掘った穴に、神へのお供えものとして、勝ち栗・塩・洗米・昆布・するめ・

「決まり手」

相撲48手と言われていますが、48手は数が多いという意味で、江戸時代には数え切れない程の技がありました。その後、決まり手が洗練され、現在では、決まり手の数が82手になりました。

代表的な決まり手10選



食

土俵の興奮を間近に感じながら、飲んだり食べたりできるのも、大相撲観戦の楽しみ方のひとつ。お弁当、お酒、おつまみ、お菓子...。まるで機敷席ごとに、小さな宴がいくつも開かれているような風景は、大相撲ならではの雰囲気です。ここでは国技館ならではの名物グルメの数々をご紹介します。



「焼き鳥」

相撲は手をつくると負けることから鳥は二本足で立つので縁起物とされており、国技館で焼き鳥が名

我が国の相撲の起源としては、古事記(712年)や日本書紀(720年)の中にある力くらべの神話や、天覧勝負の伝説があげられます。相撲はその年の農作物の収穫を占う祭りの儀式として毎年行われ、これが後に宮廷の行事となり300年続くこととなります。

「戦国の力じまん」

鎌倉時代から戦国時代にかけては武士の時代。武士の戦闘の訓練として盛んに相撲が行われました。織田信長は深く相撲を愛好し、元龜・天正年間(1570-92年)に近江の安土城などで各地から力士を集めて上覧相撲を催し、勝ち抜いた者を家臣として召し抱えました。

「江戸文化と相撲」

江戸時代に入ると浪人や力自慢の者の中から、相撲を職業とする人たちが現れ、全国で勧進相撲が

カヤの実の六品目を埋め、塩と酒で清めます。土俵はこの儀式によって、神聖なものになります。

「力士の所作」

身を清める意味の力水。前の取組で勝った力士から水をうけ、口をすすぎます。負けた力士は退場するので、その場合は次に取組む控えの力士が代わりに行います。控がない取組―幕内土俵入前の十両最後の一番は呼出が、結びの一番の場合は付け人が行います。



□清めの塩

地の邪気(悪い気)を払い、土俵を清める意味から、土俵には「清めの塩」をまきます。塩には殺菌効果があるので、すり傷や切り傷の化膿止めにもなります。一場所です約六百キロ使われます。

「着物と地位」

□着物

力士の服装は素材や種類の違いがありますが、外出の際には全員着物を着ています。十両からは正装である紋付羽織袴の着用を許されます。



物になったのは蔵前国技館時代(約60年前)から。当時焼き鳥は敷地内で焼かれており、あたりには焼き鳥のいいにおいが漂い、立ち込める煙に風情がありました。現在は、国技館の地下で作られています。その数、なんと1日平均45000本!当時の味を落とさないため、6回もタレを染み込ませ、手間隙かけて作られています。国技館に観戦にこられた際には是非ご堪能ください。

「ちゃんこ」

「ちゃんこ」と聞けば、殆どの人は「ちゃんこ鍋」を連想するでしょうが、相撲界でちゃんこは力士がつくる料理全般のこと。チャーハンや目玉焼きも力士がつくったものであればちゃ



行われるようになり、江戸時代中期には定期的に相撲が興行されるようになりました。やがて谷風、小野川、雷電の3大強豪力士が出現し、将軍上覧相撲も行われ相撲の人気は急速に高まり、今日の大相撲の基礎が確立されるに至りました。

「江戸時代から変わらぬ姿」

大相撲は、長い歴史の中で次第にルール化され、洗練され、様式化されてスポーツとしての形態を整え、我が国固有の伝統文化となりました。

土俵入り、番付表、化粧廻し、髷、着物、取組。江戸時代から時間が止まっているかのように、長い歴史と伝統を今でも生で感じられる大相撲。1500年以上続く歴史を国技館では是非ご体感下さい!



□横綱土俵入り

化粧廻しの上に綱を締めた横綱が、行司の先導で、露払い、太刀持ちをしたがえて土俵に上がり土俵入りを行います。

土俵入りの型には「雲龍型」と「不知火型」の二種類があります。

□弓取り式

勝った力士に弓を与えたところ、力士が弓を持って舞ったのがはじまりといわれています。千秋楽だけに行われていたものが、毎日行われるようになりました。現在は、幕下力士の中から選ばれた力士が専門に行います。



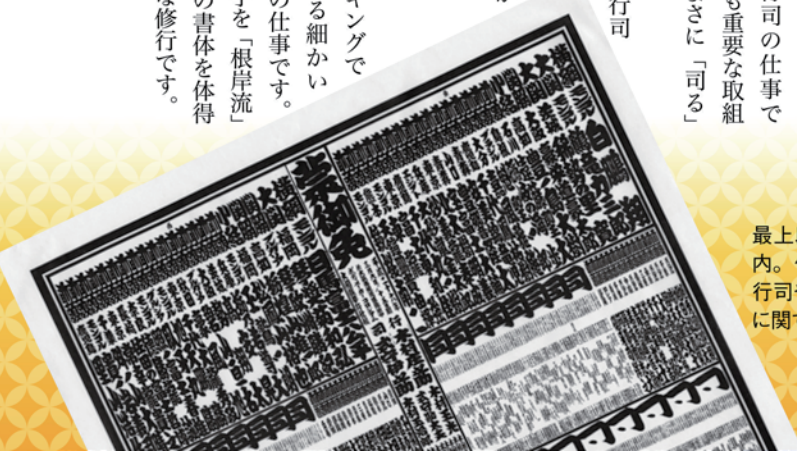
「行司」

□勝敗を裁く判定役

取組の進行役が行司の仕事です。相撲において最も重要な取組み、その「行い」をまさに「司る」のが行司の役目。立行司は最高位の行司のことで、上位の木村庄之助とそれに続く式守伊之助がいます。

□番付

力士の実力別ランキングである番付表。表にある細かい文字を書くのも行司の仕事です。ここで書かれる相撲字を「根岸流」とも呼び、この独特の書体を体得するのも行司の重要な修行です。



最上段の右が東幕内、左が西幕内。他に、力士の地位や出身地、行司や呼出の名前など、その場所に関する様々な情報が載っている。

「相撲弁当」

国技館の館内で販売されている、力士弁当。現在は横綱・大関の各弁当が販売されています。



琴奨菊弁当には、うなぎご飯、明太子入り鶏ささ身カツ、有明産の岩のりなど、九州産の食材を使っている。※お弁当の中身は変更する場合がございます。※写真はイメージです。